

第49回道本部委員会 仲間を増やして全国大会・道大会を成功させよう 「コロナ前」の活動とりもどして

6月30日に開催した第49回道本部委員会は、2024年春闘期のとりくみの到達点を確認するとともに、たたかいをさらに前進させ仲間を増やして第25回全国大会・第24回道本部大会を成功させる方針を決定しました。会議には道本部委員24人（うち12人は委任状）をはじめ執行部などが参加しました。はじめに道本部の森国委員長が「通常国会が開会したが政治資金問題で岸田政権への国民の批判は高まっている。自民党政治に終止符を打たなければならない。北海道の最低生計費は前回の1,500円から1,700円になっており、全国一律最低賃金制が必要だ。暮らしを守る声を大きくし、仲間を増やして大会を迎えよう」とあいさつしました。

宮澤書記長の議案提案のあと6人が討論に参加し、「各地で数年ぶりに健康相談会が開かれるなどとりくみが強められている」「建交労学校に参加しているいろいろな業種の仲間と交流してつながりがもてて見分がひろがった」「建設業での2024年問題について、建設部会の労働局、開発局との交渉や業界団体への要請に参加した。今後も建設労働者の労働条件改善にとりくみたい」「学童保育への国の補助金を活用するよう札幌市に要求書を出す」「自治体の非正規職員の労働条件改善を求めるとりくみをすすめたい」「春闘でのベースアップや夏季一時金は不満が残っている。エルダー社員の寒冷地手当など諸手当が奪われたままだ。さらに改善を求めてたたかう」などの報告がありました。また「オンラインではなく対面での学習会に参加した仲間の顔が明るくなった。組合活動も対面でやるようにしたい」という発言もありました。

宮澤書記長は討論のまとめで「いま労働組合が頼られている。まわりの労働者に目を向け、要求に耳をかたむけ、コロナ前の活動を取り戻してがんばろう」と強調しました。

小樽一般労組の2つの支部が春闘・一時金受結

小樽一般労組カイゲンファーマ支部は6月11日に会社から賃上げ、一時金などの要求に対する回答を受け妥結しました。賃上げは組合員平均で4,000円のベースアップ（前年同額）+定昇分として6,378円（前年は5,000円）です。一時金は年間で4.05か月分（前年は4.1か月分）です。

また同光合金支部は、春闘で基本給の2.5%でベア6,000円の賃上げ（前年は5,000円）、夏季一時金は基本給の1.0か月分（昨年同率）平均240,000円で妥結しました。

釧路地域支部太平洋運輸分会が夏季・冬季一時金受結

釧路地域支部太平洋運輸分会は、夏季・冬季一時金ともに一律500,000円を要求し、55才まで420,000円（305,000円+115,000円）、56～60才まで389,500円（305,000円×90%+115,000円）、61～65才まで（305,000円×81%+115,000円）で昨年と同額で夏・冬ともに6月26日に妥結しました。

函館運送支部が夏期一時金受結

函館運送支部は、6月28日に夏期一時金について妥結しました。妥結内容は、本採用・1.837か月分=445,925円（前年は1.874か月分=450,067円）、58歳到達者・1.470か月分=364,149円（前年は1.499か月分=368,380円）、東京嘱託・1.470か月分+14,000円（前年は1.499か月分+14,000円=372,098円）、臨時従業員・1.286か月分+24,800円=252,230円（前年は1.312か月分+17,000円=242,205円）、60歳到達者・一律134,500円（前年は一律108,500円）です。